

Y09a 国立天文台三鷹「オンライン定例観望会」の試みと今後の展望

桑田敦基, 鈴木雄大 (東京大学), 石川直美, 日比野由美 (国立天文台), 石塚典義 (東京大学/国立天文台), 江良真結子 (東京工業大学), 大島由佳, 本間航平 (東京大学), 他国立天文台三鷹定例観望会スタッフ

国立天文台三鷹キャンパスでは、50センチ公開望遠鏡を用いた市民向けの定例観望会を行っている。1996年4月に始まり25年以上にわたって続いてきた定例観望会の運営の主力は、天文学を含む様々な分野を専攻する学生である。望遠鏡の操作だけでなく、観望天体に関する最新の研究成果を含めた解説、国立天文台4次元デジタル宇宙プロジェクトによるシミュレーションソフト「Mitaka」を用いた講話、さらに当日の受付や誘導など、運営のほとんどを学生が務め、学生の科学コミュニケーションの修行の場としてもこの定例観望会は位置付けられる。

しかし2020年2月、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために定例観望会は中止を余儀なくされた。当初は感染予防対策を十分に講じた上での現地での再開を検討していたがそれも叶わず、オンライン定例観望会の企画に踏み切った。双方向性を担保しながらこれまでの定例観望会の特色を活かしたものにすべく、学生スタッフの有志が集まり議論を重ね、2020年8月、YouTubeライブでのオンライン定例観望会として再開させた。「Mitaka」を用いた講話や観望天体の解説、50センチ公開望遠鏡によるライブ映像配信を組み込んだオンライン定例観望会により、現地開催での定員を大幅に上回る視聴者数を獲得することができた。その後に緊急事態宣言が発令された際には、望遠鏡を操作するスタッフの夜間の外出を控えるため、これまで撮影されたアーカイブ映像を放映することによってオンライン定例観望会を継続させてきた。これまでに10回以上のオンライン観望会を開催し、視聴者からも高い評価を得ている。本講演では定例観望会の中止からオンラインでの再開に至る経緯とオンライン定例観望会の実施報告、さらに今後の展望を述べる。